

社会福祉法人きらくえん  
けま喜楽苑

〒661-0982 兵庫県尼崎市食満2丁目22番1号  
TEL: 06 (6493) 8300 (代) FAX: 06 (6493) 8320  
URL: <http://www.kirakuen.or.jp>



兵庫県  
地域サポート施設  
社会福祉法人

## 二〇二五年 新年のご挨拶

謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

昨年は3年ごとに見直される介護報酬の改定年でした。介護業界はコロナ感染、人手不足、物価高騰による厳しい経営環境下において、2024年度（1月～10月）の倒産件数は145件と過去最多となりました。なかでも介護報酬がマイナス改定となった訪問介護は深刻なヘルパー不足と運営コストの上昇等により倒産件数が増えました。訪問介護以外にも当法人が運営する拠点施設のエリアで複数の小規模事業所が閉鎖し、過疎地域では医療と介護のサービスが不足するなど、住み慣れた地域での生活継続が困難な状況がみられます。

ますが、人材確保は年々困難な状況にあり、外国人の採用を積極的に行っていきます。

また、ICT（情報通信技術）の活用により利用料請求書のペーパーレス化と事務業務の省力化に取り組んでいます。何卒ご理解とご協力を賜りますようお願い致します。

本年は阪神淡路大震災から30年を迎えます。私は震災後に開設した「高齢者・障がい者地域型仮設住宅」から福祉の仕事に就きました。あれから30年。国内外では大規模災害が頻発しています。災害から大切な命を守るために、震災の記憶と教訓を次世代に継承し、自治体とも連携しながら防災と減災に取り組んでいきたいと思えます。

本年が皆様にとりまして素晴らしい1年となりますよう心からお祈り申し上げます。

二〇二五年元旦

きらくえん 理事長

土谷 千津子



新春の候、皆様におかれましては健康に新年をお迎えのことと心よりお慶び申し上げます。旧年中はけま喜楽苑の事業運営に対し、ひとかたならぬご指導・ご支援を賜り、誠にありがとうございました。

本年は、戦後80年という節目の年を迎え、改めて平和の尊さを深く考える重要な年となります。また、阪神淡路大震災から30年を迎え、災害の記憶を風化させることなく次世代へ伝え、防災や地域の絆の大切さを再認識する1年でもあります。このような中、けま喜楽苑では、昨年に引き続き防災訓練を継続して実施し、日頃の備えの重要性を職員全体で共有しながら、入居者の皆様の安全を守る体制をさらに強化してまいります。

また、感染症の脅威は依然として存在しますが、徐々に日常生活を取り戻してまいりました。様々な行事も以前とは形を変えながらですが、工夫しながら実施することができました。今後皆様とともに楽しいひとときを過ごすことができるよう、取り組んでいきたいと思えます。

昨年、日本被団協がノーベル平和賞を受賞したことは、核兵器廃絶への長年の努力が世界的に認められた大きな成果です。また、旧優生保護法に基づく強制不妊手術に対し、最高裁が違憲判決を下したことは、人権を重視する社会の実現に向けた歴史的な一歩となりました。

一方2025年度予算案では社会保障費が抑制され、防衛費が過去最大を更新するなど、国の予算配分には引き続き課題が残されています。社会保障費の抑制に対しては、各種団体と協力しながら、政府交渉や署名をはじめ、声をあげていくことがますます重要になっていきます。引き続き社会保障制度の維持と改善に向けて、積極的に取り組んでまいります。

こうした状況においても、私たちは法人理念である「ノーマライゼーション」地域の中で一人の生活者としての暮らしを築くことに立ち返り、入居者・利用者の皆様が豊かで安定した生活を送れるよう、職員一同全力で取り組んでまいります。

最後になりましたが、本年が皆様にとって健康で幸多き1年となりますことを心よりお祈り申し上げます。本年もどうぞよろしくお願ひ申し上げます。

けま喜楽苑 施設長

重村 由香





にらみ鯛で無病息災を願いました



お屠蘇で新年を祝います



下食満稻荷神社へ  
ご参拝



青空の下でお餅つき



「良い1年になりますように！」



「みんなでお参りできました！！」



## 巳年を迎えられた年男年女の皆さま



グループホームかみ

今里 邦彦 様 (昭和16年生まれ)

### お正月の思い出

みんなで家でゆっくり過ごしたのが正月

### もう一度やってみたいこと

木を植えたり、花を植えてきれいにしたい  
(造園の仕事をされていた)

今年の抱負 100歳まで頑張ります

病気をせずに元気に過ごす



グループホームしも

吉田 節子 様  
(昭和16年生まれ)

### 今年の抱負

楽しく過ごして、美味しい  
ものを食べたいです



特養2階

大林 深智恵 様

(昭和4年生まれ)

### お正月の思い出

神社にお参りに行き、お雑煮を食べ、  
あとは家でゆっくり過ごしていたね

### 今年の抱負

風邪をひかず健康に1年を過ごしたい



ラ・メールさんによるクリスマスコンサート



生け花教室



手作りおみくじを  
ひいていただきました



書初め!  
力強い『迎春』



10月に農業公園へ外出しました。天気も良くお出かけ日和になりました。(特養3階 中村)



心地よい風が吹いていました



「綺麗なバラやね」

### 文化祭を開催しました



特養2階入居者様の作品展示



いなりの里合同作品

### 特養2階

### さつまいもケーキ作り



この日のメニューは入居者からのリクエストで『さつまいもケーキ』に決定。前日のお買い物から、入居者のみなさんと準備をすすめました。材料を量ったり、さつまいもを潰す工程も皆さんで協力して行きます。料理上手の主婦が集まり「ザルでこしたほうがええんちゃう?」「もうちょっとつぶしておこうか」と職員に料理の手ほどきをしてくださいました。

完成後は皆さんで召し上がり「美味しい!美味しい!」の声がフロアに響きました。旬の食材を味わいながら、笑顔あふれるひとときとなりました。(特養2階 藤本)

### 新年のご挨拶

副施設長 新庄 道子



謹んで新年のお慶びを申し上げます。  
昨年7月1日付けでけま喜楽苑の副施設長に就任いたしました新庄道子と申します。  
早いものでけま喜楽苑の副施設長に就任し半年が経過しました。これもひとえに皆さまの暖かいご支援のおかげと心より御礼申し上げます。

私事ではありますが、平成20年にけま喜楽苑に入職し16年目を迎えます。これまではデイサービス、ショートステイで勤務させていただき、ご利用者、ご家族、関係者の皆さまとの出会いを通して、様々なことを学び成長させていただきました。改めて感謝申し上げます。

さて、藻川のほとりに立地するけま喜楽苑の周辺は田畑が多く残り、河川敷に広がる一面の緑に野鳥の姿が見られる自然豊かな環境です。私自身も居を構え、たいへん愛着のある土地です。この地域でこれからも、さらんえんの理念であるノーマライゼーションの実現に向けて、ご利用者、ご家族の想いを大切にした施設運営を目指し、一層精進してまいりたいと思っておりますので、何卒、ご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

新しい年が皆様にとって素晴らしい一年となりますよう心よりお祈りいたします。本年もどうぞ宜しくお願い申し上げます。

# 第3回 防災訓練



もしもの時に、自分たちができることを一層に考えましょう！  
 どなたでもご参加いただけます。

- テーマ** 自然災害から命を守る!!
- 日時** 令和6年11月24日(日)
- 時間** 午前10時～12時
- 場所** けま喜楽苑

**当日のプログラム**  
 \*大地震が起きた時におけるべき行動  
 \*南海トラフ地震発生想定への初期対応  
 \*ケガ人の搬送誘導、手当て  
 \*災害後の建物設備の点検  
 \*震災後も想定した生活環境作り



## 大地震を想定した地域防災訓練を実施

11月24日(日)南海トラフ地震を想定した防災訓練が行われ、消防団や地域の関係機関、近隣の福祉施設の職員の皆さまにもご参加いただきました。災害対策本部の指示のもとに各班連携し訓練を実施しました。ご入居者の皆様も“まず低く、頭を守り、動かない”シェイクアウト訓練に参加し、ご自身の身を守るための基本動作を確認され、緊急時に備えていらっしゃいます。また、ライフラインが使えない事を想定した非常用トイレの設置なども行いました。地域一体となった取り組みにより、防災意識が一層高まる貴重な機会となりました。(SS 平野)



大きな揺れから身を守る行動  
シェイクアウト訓練



グループホーム棟に  
災害対策本部を設置



各班ごとに色違いの  
ビブスを着用



避難誘導班・安否確認班  
各フロアに向かいます



被害状況を集約



設備点検班 ライフラインと建物の  
被害状況・危険箇所を確認



けが人を想定した救助訓練  
救護スペースまでの搬送を行います



名簿で安否を確認  
けが人の正確な情報を収集

## 出張講座に行ってきました!

尼崎市立尼崎双星高等学校の出張講座に参加しました。講師は、特養の足立リーダーと齋藤作業療法士です。介護の仕事の魅力や安全な介護機器の使用方法について学んでいただきました。



皆さん熱心に聞いてくださいました



## “作業療法士”という職業との出会い



中学生の頃、母親の仕事の都合でスウェーデンに行く機会があり、高齢者施設や地域で生活している方に出会い、話を聞くことが出来ました。そこで作業療法士の方にも出会い、高齢者や作業療法士、みなさんがとても素敵な笑顔で過ごされていたことが印象的でした。私も人を笑顔にできる仕事に就きたいと思い、作業療法士になることを決めました。

私の役割としては、ご入居されている方が最後の日までその方らしい生活が続けられるよう、身体面、精神面、心理面を確認し、生活リハビリに組み込んでいければと思います。毎日、「おはよう」「おやすみ」「また明日」など何気ない会話ができることが当たり前ではないと思っています。その一言が言える、聞けることが日々の仕事のやりがいに繋がっていると思います。(作業療法士 齋藤邦子)